
活動の概要

このプロジェクトは、2014 年度から始まり、昨年に引き続きそれぞれで対象とするまたは興味を持っている「福祉」を考えて、メンバ内での福祉に関する認識を共有した。今年度は、防災を意識してオープンハウス、IAMAS2022 等でそれらの模様を展示してきた。また、大垣特別支援学校の先生らと防災教育について提案した。

研究分担者：小林孝浩

プロジェクト研究補助員：篠田幸雄、湯澤大樹

学内での活動

1 大垣特別支援学校 山本先生と意見交換会

プロジェクト基礎の時間を利用して、今年度予定している防災教育について、特別支援学校が抱えている課題など意見交換を行なった。

日時：2021 年 5 月 11 日（火）

場所：IAMAS プロジェクト室

2 オープンハウスでの中継

オープンハウスでは「防災から考えよう」として、災害時にも普段の生活にも有用と思われる取組みを紹介し、災害時に取組むべき内容を実践・中継した。また、参加者も含めて実践等の内容を意見交換しました。この中で、参加者の一人で防災士の方より、内容についてのアドバイスも頂いた。

日時：2021 年 7 月 23 日（金・祝日）

場所：オンライン



図 1 オープンハウスで中継

3 修了研究発表・プロジェクト研究発表での展示

2021 年度のプロジェクトの活動内容（ワイド福祉の技術プロジェクト、大垣特別支援学校の防災、オープンハウスでの内容）をバナーと映像による展示を行った。

日時：2022 年 2 月 20 日（日）～23 日（水）

場所：センタービル 3F ソピアホール



図 2 プロジェクト研究発表での展示

学内外での活動

1 ワイド福祉の技術プロジェクト（仮）の活動

オンライン上で気軽に相談、雑談する場として、2020年のオープンハウス以来、毎週金曜日に一般参加者を交えて開催してきた。このプロジェクトは日頃の疑問も共有する場としても機能するようになってきた。今年度は防災を意識した活動も行なっていたため、その一環として、自宅から職場まで歩きその模様を中継するなどの提案があった。



図 3 歩く道のりを中継

岐阜県立大垣特別支援学校との連携

大垣特別支援学校の先生とXR技術を防災教育等で活用する方法について、アイデアを出し合い、実施方法に関してアドバイスをするなどして関わった。以下は主な内容について報告する。

1 情報教育研究助成連絡協議会のメンバーとして参加

年度当初に大垣特別支援学校の先生たちとXRなどを活用した内容についての方向性やスケジュールについて打ち合わせを行った。また随時打ち合わせをオンラインなどで行なった。

初回日時：2021年4月14日

場所：岐阜県立大垣特別支援学校内

2 豪雨体験について

XRの第一弾として簡単に準備できて実施が可能なARお天気アプリを利用した豪雨体験を提案し、その実施方法などについてアドバイスをを行なった。子供たちには豪雨時の雨量の違いで視界がどう変わるかをゴーグルで体験してもらった。

日時：2021年7月16日など

場所：岐阜県立大垣特別支援学校

プロジェクトメンバーにはオンラインで配信



図 4 豪雨体験

3 水没体験

子供たちに防災教育を身近に感じてもらうため、おもちゃの家を使ったミニチュアによる水没体験を取り入れた防災教育を提案した。YouTubeなどのリアルな映像を視聴すると怖がらせてしまうため、より



図 5 おもちゃの家と設置された全地球カメラ

身近なおもちゃの家で実施することで、遊びの感覚で体験してもらうことを目指した。おもちゃの家の近くに全天球カメラを設置しておき、上からジョウ口の雨を降らせ家が水没していく様子を、子供達が直接見て感じてもらう、という体験をする。後からカメラ映像を VR 映像としてゴーグルをつけて視聴する、など授業の中で VR を使った防災教育の方法を探った。

日時：2021年9月2日など

場所：大垣特別支援学校

プロジェクトメンバーはオンラインでの参加



図 6 ジョウ口の雨を降らせている

4 先生たちへのインタビュー

防災などで提案した XR 技術を含め、ICT 機器が利用できる環境が利用できるようになりつつあるが、一部の先生の利用に留まっていることから、他の先生へどのように広めるといいか、そのヒントを探るために先生へインタビュー調査を行なった。

会期：2021年12月14日

場所：大垣特別支援学校



図 7 水没体験